自然教育園報告(Rept. Inst. Nat. Stu.)
第22号：37—42，1991

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査　第24報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査（平成元年度）

千羽　晋示*1・安部　直哉*2

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 24. The Inquiry about the Distribution of Cranes in western and central Japan

Shinji Chiba*1 and Naoya Abe*2

序

ツル類の渡来・生息状況などについて，前4年度に引き続きアンケート調査を行なった。昭和60年度から5回のこの調査によって，中部日本以西，以南の各地におけるツル類の渡来・生息状況に関する貴重な情報が得られた。

5ヶ年のアンケート調査に協力くださった多くの方々にお礼申し上げる。

調　査　方　法

調査対象期間　1989年秋期の渡来期から翌1990年春期の渡去期まで（1989—1990年期）。

調査対象地域　九州，四国，中国，近畿，中部地方と東北地方の一部とした。

アンケート調査の内容　前年度ならびに前々年度と同じで，調査用紙の様式，内容は千羽・安部(1989)に示してある。

アンケート調査用紙の発送先　前述の地方に在住の日本鳥類保護連盟会員，長崎県生物学会々員，そのほか鳥類研究者，観察者に対して，返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付した。ただし，調査依頼者は前2年度の回答者から選定した。

調　査　結　果

調査用紙の回収結果

各県別の回答者数を表1に示した。総回答者数は372名(このうち3名は，転居による，調査対象地域

*1　国立科学博物館附属自然教育園，Institute for Nature Study, National Science Museum.
*2　神奈川県相模原市旭町22-21，柳下荘，Asahi-cho 22-21, Sagamihara-shi, Kanagawa-ken.

外からの回答であった)。調査用紙の回収率は82%であった。

調査記録のまとめ方

各回答者からの記録のまとめ方と記述方法はこれまでの報文と同じ様式で統一し，一部の記録には編著者の「注記」を付けた。

なお，表1には回答者数が示されているが，次項では出ていない県は，本調査ならびに他の情報による限り，1989—1990年期にはツル類の記録がなかった県である。

表1．県別回答者数

秋田	8	三重	12	徳島	6
山形	1	滋賀	4	香川	4
福島	4	京都	12	愛媛	3
新潟	19	大阪	20	高知	9
富山	7	兵庫	27	福岡	27
石川	5	奈良	8	佐賀	5
福井	3	和歌山	5	長崎	29
山梨	4	鳥取	3	熊本	7
長野	24	島根	3	大分	6
岐阜	15	岡山	2	宮崎	5
静岡	18	広島	11	鹿児島	4
愛知	45	山口	3	沖縄	1

1989年秋期から1990年春期までの記録

愛知県

ナベヅル

(1)1990年3月26日から4月3日まで。親子と思われる成鳥1羽と幼鳥1羽。幡豆郡一色町清水新田，中外沢および小藪地区の水田跡，休耕田。

三重県

マナヅル

(1)1989年10月30日から11月2日まで。成鳥1羽。伊勢市一色町の水田跡。

島根県

ナベヅル

(1)1989年11月7日。成鳥1羽。松江市長江町。

(2)1989年11月9，10日。成鳥1羽。大田市羽根町。

(3)1989年11月11日。成鳥1羽。平田市灘分町，斐伊川の中洲。

注記：以後，12月初めまで，同所付近に生息していたようである。

(4)1989年11月12日。幼鳥1羽。大田市久根町。

山口県

マナヅル

(1)1989年12月15日頃より翌年３月。成鳥１羽。吉敷郡阿知須と隣接地で越冬。

(2)1989年12月29日。７羽。吉敷郡阿知須。

愛媛県

アネハヅル

(1)1989年10月９日。幼成不明，１羽。西条市の加茂川河口の干潟。10月10日11時45分，西方に飛去。

徳島県

マナヅル

(1)1989年10月６日，６時頃。成鳥１羽。那賀郡那賀川町出島。海岸沿いのヨシ原で休息。以後，10月８日８時半頃まで同所に休息。

高知県

ナベヅル

(1)1989年11月13日。１羽。中村市具同，中筋川沿いの水田跡。翌14日９時30分頃，南西に飛び去る。

(2)1989年12月18日。１羽。土佐市北地付近の田園地帯に飛来。波介川沿いのイグサ田で主に休息。

注記：(1)，(2)とも，「高知新聞」に掲載されている写真を見る限り，成鳥のようである。

これらの記録のほかに，中村市には10月末から11月中旬までに，数羽の群で計10羽前後が渡来し，すぐ飛去している。

福岡県

ナベヅル

(1)1989年10月22日，16時。17羽。福岡市西区今津。翌23日の早朝まで滞在。

(2)1989年10月25日，16時30分頃。約45—50羽。糸島郡前原町上空を通過。

(3)1989年11月３日，夕方。11羽。福岡市西区今津の上空を通過。

マナヅル

(1)1989年10月26日。３羽（成鳥２羽と幼鳥１羽の１群）。福岡市西区今津。

(2)同年同日。マナヅルとみられる９羽。糸島郡前原町千早新田の上空を通過。

佐賀県

マナヅル

(1)1990年２月20日，７時20分頃。約60羽。佐賀市本庄町正里に東方から飛来し，水田跡に降りる。約２時間後に北方に飛び去る。

(2)同年同日，９時過ぎ。44羽。本庄町鹿子の水田跡に休息。

(3)1990年２月25日，10時30分頃から11時30分頃まで。２羽。佐賀市本庄町正里の水田跡で休息。

長崎県　長崎県の記録は，1.九州本島地域と2.壱岐，対馬地域に分けてまとめた。

1.　九州本島地域

ナベヅル

(1)1989年11月３日。26羽。諫早市小野島町の上空。出水方向へ飛去。

(2)1989年11月５日，13時35分頃。５羽。同上所の水田跡。

(3)1989年12月10日。同上所（羽数の記述なし）。

(4)1990年１月18日。９羽。同上所の水田跡。

(5)1990年１月28日。成鳥２羽。同上所の水田跡。

(6)1990年２月16日，午後。１羽（編著者注：同年２月18日付，長崎新聞に掲載の写真を見る限り，成鳥のようである）。福江市の南部，箕岳のふもとの畑地。数日前から同所に飛来していたらしい。同日16時，写真撮影時に舞い上り，遠くの畑地に移る。

マナヅル

(1)1989年11月３日。１羽。諫早市小野島の水田跡。

(2)同年同日。１羽。北高来郡森山町の水田跡。

(3)1989年11月５日，12時10分。成鳥１羽。北高来郡森山町の畑地。

(4)1989年11月18日。成鳥２羽。北高来郡森山町の水田跡。

(5)1989年11月23日。成鳥１羽と幼鳥１羽。同上所の水田跡。

(6)1990年２月18日，夕方。31羽。東彼杵郡波佐見町岳辺田郷の上空を旋回後，水田跡に降りる。

この群は翌19日朝まで同上所にいたが，人が近づいたため飛び立ち，同郡川棚町中山郷の水田跡にいた群と一緒になる。計約60羽（このうち幼鳥は３羽）。同19日，18時頃，ツルを撮影する人が近づきすぎたために，降雨の悪天候のなかを飛び去る。

翌20日６時，波佐見町岳辺田郷に成鳥２羽と幼鳥１羽の家族が残るのみ。この家族は10時20分に飛び立ち，上空を旋回し，気流に乗って去る。

(7)1990年２月27日，17時40分頃より計約130羽。平戸市山中町の水田跡。最初は30—40羽，その後70—80羽の群で飛来して降りる。

翌28日，８時30分頃，悪質なドライバーが急接近したため，この群は一目散に飛び立って去る。

マナヅルおよびナベヅル

(1)1990年２月13日，13時29分。マナヅル29羽とナベヅル１羽。西彼杵郡高地上空，13時36分には佐世保市赤崎町上空から弓張岳方向へ。

(2)同日13時50分。マナヅル約140羽とナベヅル１羽。黒島上空から平戸方向へ。

種不明

(1)1989年10月12日，９時30分頃。20—30羽。長崎市小倉町上空を東—東南に。

(2)1989年11月13日，15時頃。７羽。西彼杵郡野母崎町高浜上空。北から南に。

(3)1990年３月15日，12時10—15分頃。２群約30羽。長崎市末石町上空を北へ。

(4)1990年３月21日。約30羽と約100羽の２群。西彼杵郡高島上空を旋回して北へ。

注記：(1)については「結び」の項で検討した。

2．壱岐，対馬地域（種不明の記録も含めて，季節順に記録を示した）

壱　岐

(1)1989年10月19日，15時。８羽（種不明）。壱岐郡石田町深江田原の上空を旋回中。

(2)1989年10月24日，16時。羽数の記述なし。同上所とその一帯上空を旋回。

(3)1989年11月３日，17時。23羽（種不明）。同上所の上空を北から南へ。

(4)1989年11月４日，17時30分頃。１羽（種不明）。壱岐郡郷ノ浦町岳ノ辻自然公園の上空を北西から東南へ。

(5)1989年11月10日，夕方。マナヅル約50羽。壱岐郡芦辺町深江の上空を南へ。

(6)1990年２月14日，15時から日没時まで。マナヅル55羽。壱岐郡芦辺町深江の水田跡。

(7)1990年２月15日，９時20分頃。マナヅル約60羽。壱岐郡郷ノ浦町の上空，南から来て北へ。

(8)1990年２月18日，夕方。マナヅル約50羽。壱岐郡芦辺町深江の水田跡。

(9)1990年２月20日，17時から翌21日７時。マナヅル６羽。同上所の水田跡。

(10)1990年２月22日，16時から翌23日15時まで。マナヅル52羽。同上所の水田跡。

対　馬

(1)1989年10月６日，９時30分頃。ナベヅル21羽か22羽。上県郡上県町佐久奈の上空を南に。

注記：この記録については「結び」の項で検討した。

(2)1989年10月30日，12時15分。42羽か43羽の１群（種不明）。上県郡上県町佐護の上空を南に。

(3)1989年11月４日，朝。ナベヅル約60羽。同上所の水田跡。昨夜に渡来したもの。

(4)同年同日，13時30分。ナベヅル成鳥２羽と幼鳥２羽の家族。上県郡上県町田ノ浜に降りている。

(5)1989年11月５日，早朝から10時０分頃まで。ナベヅル約40羽。上県郡上県町佐護の水田跡。前日，同所に見られたナベヅルの群れとは別の群れと思われる。

(6)1990年３月４—５日。マナヅル約160羽。同上所の水田跡。４日夜から５日未明にかけて舞い降り，少時間の休息後，５日朝に北帰。

熊本県

ナベヅル

(1)1989年11月２日，11時頃。11羽。天草郡河浦町久留に降りていたと思われる。低空を飛行し，古浜岳の東側上空へ舞い上り，高度をあげて出水方向に。

(2)1989年11月５日，15時。約70羽。天草郡河浦町の上空。出水へ行くものと思われる。

(3)1989年11月28日。１羽(新聞写真では成鳥と思われる)。下益城郡松橋町南豊崎，大野川近くの水田跡。夕方には宇土郡不知火町の方向に飛去。

(4)1989年12月末頃より，成鳥１羽。玉名市ならびに玉名郡の横島干拓地一帯に1990年１月10日頃まで生息。

注記：(3)と(4)の記録の１羽は同一個体の可能性が高い。

マナヅル

(1)1990年１月13日から２月12日まで。成鳥２羽と幼鳥２羽の家族。天草郡河浦町の水田跡。

結　　び

最近では，出水地方に渡来，越冬するツル類の秋期の初到着地は出水地方のいわゆる荒崎地区か東干拓地である。1989—1990年期の出水における初渡来記録は1989年10月９日16時過ぎに東干拓地で初めて観察されたマナヅル成鳥２羽であった。

これより早い本年期の記録は，(1)徳島県の項に示した，10月６日から８日８時半頃まで同所で観察されたマナヅル成鳥１羽，(2)愛媛県における1989年10月９，10日に観察されたアネハヅル１羽，(3)対馬北部でツル類の観察を続けていられる山村辰美氏による，10月６日９時30分頃，ナベヅル20数羽の１群の南下の記録である。

上述(3)の対馬における観察は，ただちに出水の鹿児島県鶴監視員・又野末春氏に伝えられたが，この群と考えられるナベヅルは出水地方ならびに九州の他の地方にも出現しなかった。ただ一つ，この20数

羽のナベヅルの群かとも考えられる記録は，長崎県九州本島地域の種不明の項の(1)に示した10月12日，長崎市小倉町上空を行く20—30羽の1群であった。

ところで，本年期の出水地方におけるナベヅルの初渡来は，ユーラシア大陸東部に寒気が出現した10月17—18日の夜間で，18日早朝に6羽のナベヅルが観察された。その後しばらくナベヅルの渡来はなく，10月22日には計38羽となった（以上の出水地方における状況は又野末春氏の観察による）。

前4回の調査と同様，1989—1990年期の調査においても，渡り途中の休息地，避難地として壱岐・対馬の両島の重要性がよく示されていた。特に渡去期については，出水における渡去記録と各地における観察記録あるいは一時的な休息，避難状況，気象条件などとの関係について興味深い資料が得られているので，これらについては別に報告する予定である。

引　用　文　献

千羽晋示・安部直哉．1989．鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査　第16報．ツル類の生息状況に関するアンケート調査（昭和62年度）．自然教育園報告，20：41—48．

1988年秋期から1989年春期（1988—89年期）の記録補遺

(1)1989年2月27日，16時。種不明の20羽。下県郡厳原町上空を北へ。

(2)1989年2月28日，16時。種不明の28羽。下県郡美津島町上空を旋回。

(3)1989年3月16日，17時。種不明の12羽。上県郡対馬町上空を北西へ。